



第160回 市町村セミナー

令和4年6月24日

行政説明②

介護予防・日常生活支援総合事業等の充実のための工夫 ～庁内連携及び関係機関・住民との目線あわせ（規範的統合）～

厚生労働省 老健局認知症施策・地域介護推進課

地域づくり推進室 室長補佐 田中 明美

奈良県生駒市の取組

生駒市の紹介

■ 生駒市の特徴

- ・ 周囲約60km、面積53.15km²
東西約8.0km、南北約15.0km
- ・ 奈良県の北西端、大阪府と京都府に隣接。
- ・ 西に標高642メートルの生駒山を主峰とする山地、東に丘陵があるため、標高差から坂道が多い。
- ・ 自然環境の良さや交通の利便性から人口は伸び、平成2年に県下3番目の10万都市となり、平成22年末には12万人を超えました。

生駒駅



【坂道の多い街】

高齢者にとってきつい坂道がたくさんあります。



暗峠



生駒山上遊園地



宝山寺 生駒聖天



高山竹あかり



日本で一番最初に開業したケーブルカー
このケーブルカーの愛称はミケ



高山茶釜

生駒市における地域包括ケアを起点とした「地域づくり」

第1幕 住民・関係者との 目線合わせ

- 地域包括ケアの考え方の重要性を住民、専門職、サービス提供主体が共有
⇒地域の関係者が同じ方向を向くことで地域づくりの土台に

第2幕 介護予防把握事業で 孤独・孤立への対応

- 75歳以上で要介護、要支援認定を受けていない人全員を対象に、基本チェックリストを郵送し、フレイルリスクの高い高齢者を把握（平成18年～）、未返送者のアウトリーチをとおして、孤独・孤立に関する対応を強化
⇒多様性に基づく生きがい・役割の創出やハイリスク者の早期発見・対応

第3幕 居場所・支え合いの 場づくり

- 後期高齢者の伸び率全国上位5%に位置するため、地域包括ケアの推進を強化するため、副市長をトップとして関係部署を横串でつなぐ庁内の連携体制を構築（平成26年～）
- 地域での支え合いの仕組みを強化するため、関係各課協働で「地域づくり・まちづくり」の視点も踏まえた勉強会やワークショップを各地で開催
⇒住民主体・地域運営の【場づくり】のニーズをキャッチ

第4幕 「100のコミュニティ づくり」

- 徒歩圏内の自治会館や公園などを拠点とし、福祉分野に限らず様々なサービスが自立的に提供され、人的交流が生まれる複合型コミュニティが市内に誕生（令和元年～）

第1幕 住民・関係者との目線合わせ

地域包括ケアの推進には目線合わせが要の一つ

【関係機関・者・住民との目線合わせ】

地域包括ケアシステムの構築に関する基本的な方針について、当該地域包括ケアシステムの内の住民、専門職、サービス提供主体によって共有されるよう、関係者の「考え方」や「認識」を統一することが不可欠である。

市民フォーラム・広報



認知症フォーラム in 生駒

国内や海外で先進的な取り組みをしているバリエーションをお話し、認知症の方にやさしいまちづくりを、今更だにように進めていくかを考えていきます。

【会場】18:00-18:15 生駒市の認知症施策について
【会場】18:15-19:00 バリエーション
～生駒市にとって「認知症にやさしいまち」とは～
【会場】19:00-19:15 生駒市の認知症施策について
【会場】19:15-19:30 バリエーション
～生駒市にとって「認知症にやさしいまち」とは～
【会場】19:30-19:45 生駒市の認知症施策について
【会場】19:45-20:00 バリエーション
～生駒市にとって「認知症にやさしいまち」とは～

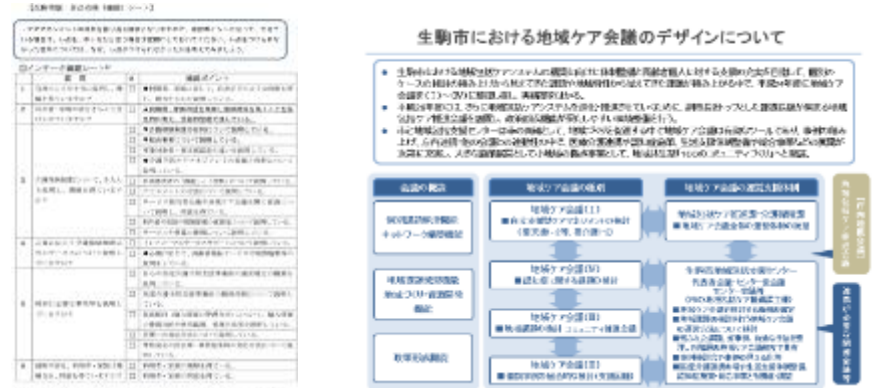
平成28年9月12日
午後4時～午後5時30分
会場 生駒市コミュニティセンター 大会ホール
入場料 無料
お問い合わせ 生駒市健康福祉課 高齢生活支援課
TEL 074-741-1111(内線7402)



自立支援・重度化防止の取り組み



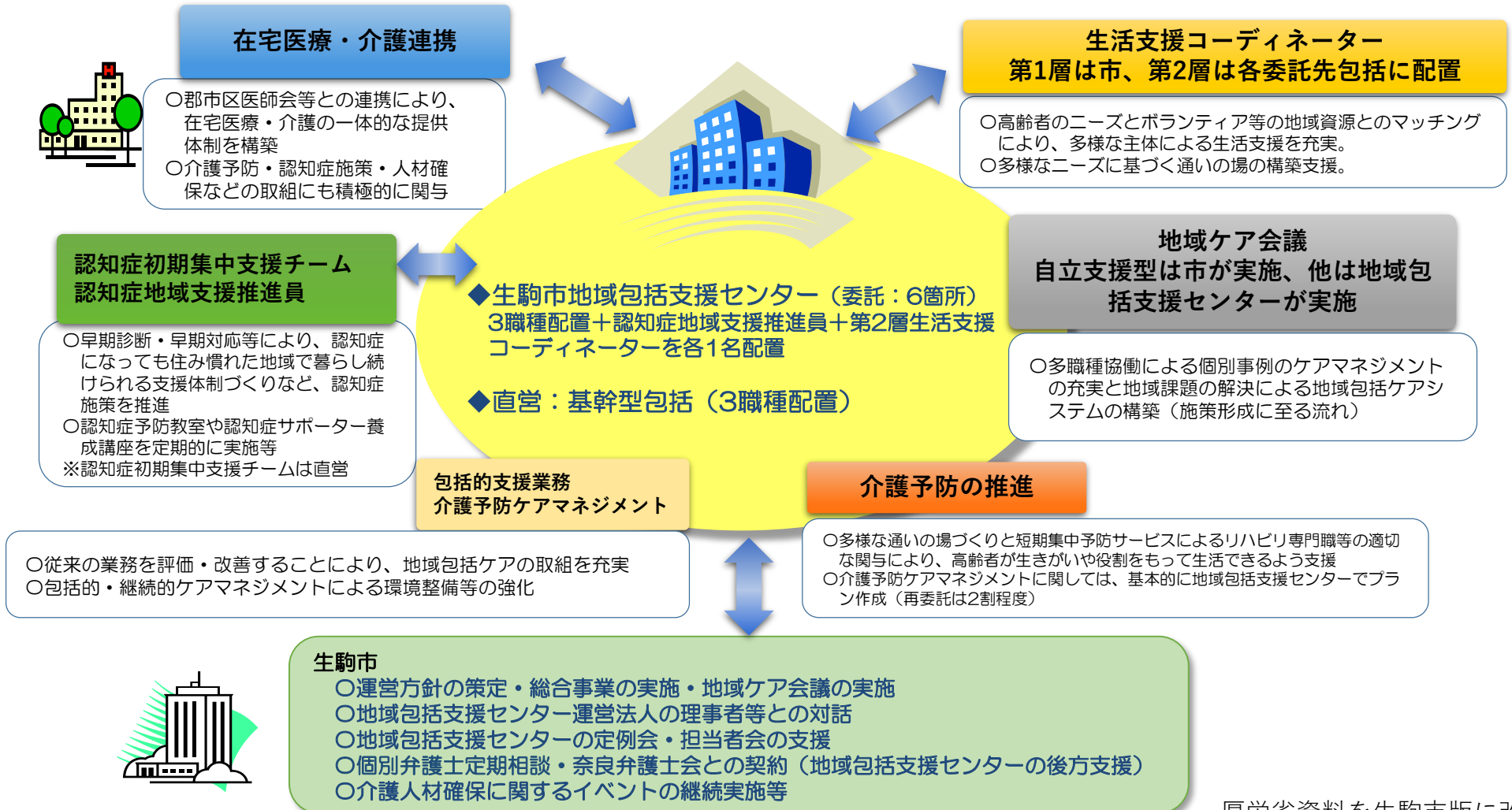
医療機関に出向いて生駒市における地域包括ケアについて周知



ケアマネジメントマニュアル作成・地域ケア会議の展開等
(医療・介護従事者と共に)

生駒市における地域包括支援センターの機能強化

- 高齢化の進展、特に後期高齢者数の伸びが著しいため、認知症に関する相談等の増加等に伴う業務量の増加や地域の見守り体制構築、生活支援サービスの整備等が必要なため、認知症地域支援推進員＋第2層生活支援コーディネーターを専従で各1名すべての地域包括支援センターに配置できるよう予算化。
- 令和3年4月より、基幹型地域包括支援センターを市に置き3職種の配置を行い、支援困難ケースや虐待対応など地域包括支援センターの後方支援を強化。



第2幕 介護予防把握事業で孤独・孤立への対応

地域包括ケアの構築に向けた生駒市の取組について

高齢者の
機能レベル

自立

虚弱

要介護

- ◆後期高齢者のほぼ全数把握を行う介護予防把握事業の実施
- ◆虚弱高齢者が増える年代に応じた介護予防や生活支援サービスの創出
- ◆地域包括支援センターの機能強化(総合相談・アウトリーチ・地域づくり等)

セルフケアの啓発・実践
生きがいの創出等

- ◆相談支援体制の充実とハイリスク者等の把握
- ◆短期集中予防サービス(C型)
- ◆地域ケア個別会議の展開・充実
- ◆一般介護予防事業や通いの場、見守り体制の充実等

医療介護連携
認知症施策等の充実

年 齢

介護予防把握事業(実態把握)

元気度チェック
(基本チェックシート)
回答用紙

年 月 日 月 日 日 日

＜良い面＞

＜悪い面＞

※ 相手の「本人」が回答してください。
 ※ 大枠内容（構成が図表）に記入してください。
 ※ 必ずすべての項目に回答してください。

以下は例題1～5を記入してください。どちらかに○をつけて回答してください。

No.	問	回答	備考
1	1. 何か物事として決断しているですか？ （何を判断しているのですか）	はい	1/1/1
2	2. 人間関係の構築をしていますか？	はい	1/1/1
3	3. 情報収集・入力を行っていますか？	はい	1/1/1
4	4. 本人の家族関係は？	はい	1/1/1
5	5. 家族や友人との関係は？	はい	1/1/1
6	6. 知人など多岐にわたる人々との関係は？	はい	1/1/1
7	7. 相手に驚かすような行動や発言をしますか？	はい	1/1/1
8	8. 1人で行動していますか？ （行動・活動・思考・感情）	はい	1/1/1
9	9. この1時間以内に決断をしていますか？	はい	1/1/1
10	10. 知人に話す手紙は送っていますか？	はい	1/1/1
11	11. 6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか？	はい	1/1/1
12	12. 体重と身長を記入してください。 身長はcm、体重はkg	身長	cm 体重 kg
13	13. 学校前にて1人で行動していますか？	はい	1/1/1
14	14. 家族や知人など多岐にわたる人々との関係は？	はい	1/1/1
15	15. 知人など多岐にわたる人々との関係は？	はい	1/1/1
16	16. 知人に話す手紙は送っていますか？	はい	1/1/1
17	17. 体重と身長を記入してください。 身長はcm、体重はkg	身長	cm 体重 kg

※ 相手の「本人」が回答してください。
 ※ 大枠内容（構成が図表）に記入してください。
 ※ 必ずすべての項目に回答してください。

以下は例題1～5を記入してください。どちらかに○をつけて回答してください。

※ 相手の「本人」が回答してください。
 ※ 大枠内容（構成が図表）に記入してください。
 ※ 必ずすべての項目に回答してください。

以下は例題1～5を記入してください。どちらかに○をつけて回答してください。

元気度チェック

**介護保険の認定申請をしていない
75歳以上の方に年一回届く
アンケート調査です。**

返信されて
いない方…

未返送者の実態把握として個別訪問

- 健康状態に問題はないか。
- 何か、お困りごとはないか

➡ **高齢者の実態把握へ**

結果に関して

- ① 生活機能低下の無い方には返信せず(あらかじめ、該当無しの方には返信しない旨通知、役務費を押さえる！)
② Bリスト(生活機能低下の項目1or2項目該当者)には一般介護予防事業等の案内通知(関心高い層はひろう！)
③ Aリスト(生活機能全般10/20以上該当＋運動器3/5以上該当＋他項目等、3項目以上の重複者)には
介護予防・生活支援サービス事業を積極的に利用勧奨(A4封筒にパンフレット挿入・個別訪問等実施)水際作戦！

介護予防把握事業 ～リスクの高い高齢者を全数実態把握～

令和3年度 基本チェックリスト（元気度チェック）

○75歳以上で要介護、要支援認定を受けていない人を対象に、基本チェックリストを実施

	発送数	回答数	未回答数	回答率
男性	5,855	5,251	604	89.7%
女性	6,489	5,864	625	90.4%
全体	12,334	11,115	1,219	90.1%

○Aリスト：運動＋生活全般の機能＋〇〇（7項目のうちいずれか）に低下項目
Bリスト：運動・生活機能・栄養・口腔のいずれかに低下

Aリスト	667人	Bリスト	2,956人
------	------	------	--------

↓
個別訪問等により
介護予防・生活支援サービス事業
の利用勧奨

↓
一般介護予防事業を案内

未返送実態把握事業（地域包括支援センターに委託）

- 75歳以上で高齢者世帯に属する方のうち、未返送の方（75歳から79歳までは夫婦ともに未返送者）
- 80歳以上で単身世帯に属する方のうち、未返送の方（民生委員把握者を除く）

未返送実態把握者数	290
未返送実態把握実人数	290

元気度チェックにより支援の必要な人を掘り起こしています！
孤独・孤立、セルフネグレクト、高齢者虐待（疑）、認知症高齢者など、未返送者の実態把握から掴むことができます。

令和２年度未返送実態把握事業（地域包括支援センターに委託）

個別訪問



【令和3年度のアウトリーチの結果】

個別訪問した２９０件のうち、２４件に認知症や精神疾患、不適切な介護や介護拒否など、課題のある世帯（継続的な支援が必要な世帯）が含まれていた。

２４件のうち、独居世帯は８件。

地域包括支援センターがアウトリーチ



年度	対象者	実態把握数 (うち対面不可)	把握割合	延べ訪問 人数
H29	208	191	91.8%	325
H30	217	216	99.5%	337
R1	240	214	89.2%	400
R2	224	216	96.4%	349
R3	290	290 (55)	100.0%	452

介護予防把握事業から、未返送者の実態把握におけるアウトリーチを
ととして、把握ができた世帯です。8050世帯で母親は重度な認知症で
したが、経済的な困窮家庭でもあり、介護申請はなされておらず、医
療受診もなかった世帯の支援を行うことになりました。



入院中の末期がんの息子さん

重度の認知症のお母さん（要介護5）



面会を支援



支援開始後、半年で末期がんの状態とな
り、意識も混濁していました。
余命幾許もない状況でしたが、母親は息
子のことも、もう認識できないだろうと周囲
は考えていました。しかし、息子さんのため
に最後のお別れをしに、母親を病室にお
連れすることにしました。
息子さんは、手を払い「母はわからないか
ら帰って」と伝えているようでした。

結果

重度の認知症で要介護5。意思疎通
も難しく、発語も無い状況でした。
病室に入った際は、呆然と立ち尽くし、
不安そうにされていました。
しかし、徐々に苦しそうに横たわっている
息子さんの体に近づき、最終的には頭を
なで、抱きしめて涙を流されていました。
手を払いのけていた息子さんの目からも
涙がこぼれ落ちていました。数日後、息
子さんは、静かに息を引き取られました。

未返送者の実
態把握におい
ては、8050の
世帯や単身の
認知症高齢者、
認知症夫婦、
セルフネグレ
クト。鬱など
で閉じこもり
がちとなり、
周囲との接点
を自ら持てず、
お困りの方々
など、さまざ
まな方々との
出会いがあり
ます。

介護予防把握事業からアウトリーチを続け、介護
予防事業に根気よくつなげた結果、現在も生き生き
とボランティア活動を継続してくださっています！



同じ境遇の人に、こう声かけた。

「なんとかなるよ」

吉川 一雄さん（79歳）
よしかわ かずお

「まさか家内が先に…」。10年
前、妻に先立たれて以来、ふさ
ぎ込んでいた吉川さんの兆候を、
地域包括支援センターの大西淑
子さんがいち早く見つけた。介
護保険を未使用の人に送るチ
ェックリストから、気持ちの沈
みが見て取れた。大西さんから
の連絡で、パワーアッププラス
教室に参加することに。知らな
い世界によう入らん、と思っ
たが家においても仕方ない。行っ
てみると人付きあいもなかなか楽

しく、みるみる元気になってい
き、そんな父親に娘たちも喜ん
で…と、いいことづくし。

卒業後に始めたボランティア
では「経験をいかし、同じよう
に落ち込んでいる人の励みにな
れば」と、常にアンテナを張り
巡らせている。実際、同じ境遇

で落ち込んでいた
男性と、どちらか
らともなく話をし
たことも…。「今
は辛い。けど、な
んとかなるよ」
どんなアドバイス
より、心に届いた
はずだ。



「本当にあの頃は、憂鬱な日々でした。大
西さんに救われた」という吉川さんに「ボ
ランティアですっかりお世話になっています。
もはや私たちは同志です」と大西さん。

マンション管理者への提案の例（孤独・孤立の解消と健康寿命の延伸）



「孤立死」のような事態を回避するために

◎ 解決のために必要なことは何でしょうか？

内閣府資料による問題点

・住民の生きがいの低下

・孤立死の増加
・交流の減少

考えられるデメリット

住民

・健康状態の悪化
・閉じこもり

住民
管理者

・孤立死発生後の対応が必要
・困ったとき（有事）に助けてくれる人がいない

生きがいを持ち、健康状態を良好に保ち、万が一のときに助けてくれる知人・友人をもってもらう取組が必要です。

「通いの場」の効果

- ・住民が集まる場所を作ること、お互いが顔見知りになる（住んでいる人の顔が見えるようになる）
- ・お互いの顔が見えることで、最近来ていない、体調が悪そうなどのサインにお互いが気づくことができる
- ・住民の健康寿命の延伸にも効果がある

管理側にも住民側にもメリット！

コミュニティの運営に亀裂が生じる恐れ



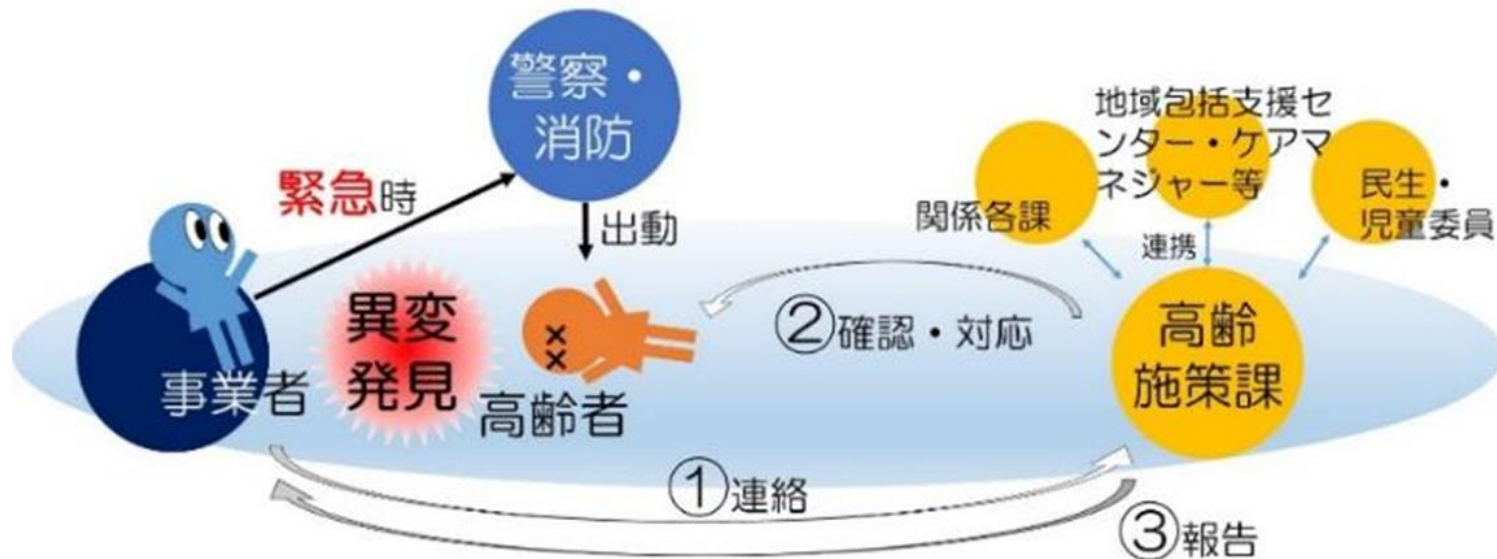
資産価値に影響が生じる恐れ



災害時に向けた対応なども含めて

高齢者見守り協力事業者登録制度

事業者の方が、事業活動を通じて高齢者の異変（配達したものが手付かずで残されているなど）を察知した際に、行政等に連絡し安否確認を行うなど、高齢者の方々が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、行政と事業者の皆様が連携して、高齢者の見守りをする制度です。



第3幕 居場所・支え合いの場づくり

生駒市における地域包括ケアシステムの構築に関する推進体制について(H26～)

生駒市における地域包括ケアシステムの推進体制の整備



個人支援の充実と
地域支援
(まちづくり)の充実
→両輪が必要

- 介護保険・医療保険の枠組みだけでは解決できない！
- 組織横断的な取組への意識改革が必要！
- 庁内部課横断的な体制づくりが必要！

- ・健康寿命の延伸と元気高齢者の社会参加への支援
- ・病気や要介護状態となっても安心して暮らせるケアの提供

介護保険分野にとどまらない高齢者等の生きがいきづくり 活躍の場の創出

食育を通じて、市の関係各課との協働！



環境保全課
エコッキング教室



生涯学習課
チャレンジ室



生涯学習課
寿大学



こども課
おさかな教室



防災安全課やまびこネット
ワーク防災訓練

1年365日、ほぼ食育に 関して活動！

- 活動が担い手自身の介護予防！
- 出発は男の料理教室の受講者
- 気づいたら、地域を支える人に変身！

介護予防の普及啓発・通いの場の充実に向けた目線あわせ

通いの場が地域を変える！

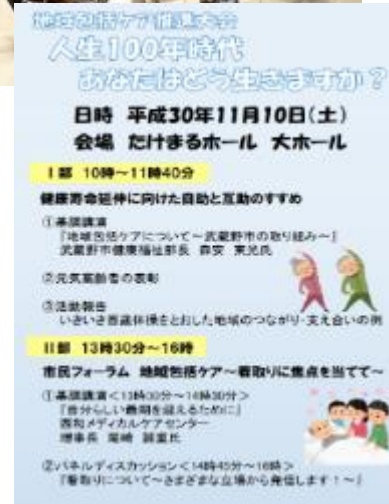
戦略を変える



集団視察



日帰りで3箇所に分かれて「いきいき100才体操」の会場をみんなで視察！
(民生委員・自治会長・老人クラブ連合会・地域包括支援センター・市職員・生活支援コーディネーター等) 同じものを見て、目指す方向を皆で共有・頑張る決意！



住民主体・地域運営の【通いの場】が増加

いきいき百歳体操の軌跡

教室名	教室数			
	H24年度	H27年度	H30年度	R元年度
わくわく教室	9	9	9	9
地域型のびのび教室	10	23	25	27
脳の若返り教室	2	7	6	6
高齢者サロン	35	40	45	45
ひまわりの集い	1	2	2	2
いきいき百歳体操		2	74	78
コグニサイズ教室			2	2
認知症カフェ			4	5
合計	57	83	167	174

R2年度

9
20
5
53
2※送迎付き4
89 地域型27
2
5
合計 211

現状

H30年度には

いきいき百歳体操1000人交流会

を実施。未実施地域の開拓を意識！
令和2年度 コロナ禍においても通いの場は増加！

地域づくりが加速化

～東生駒地域包括支援センターの取組紹介～

コロナ禍での工夫



ボランティアさんがマスクを
作って皆にプレゼント



～会えないみんなへの
メッセージ～



オレンジカフェの開催



病院のガレージでの
お食事サロン

住民との定期的な勉強会・対話をとおりして地域づくり



市内事業所のスタッフが
サロンのお手伝い



地域づくりの勉強会



軽トラで販売！ 朝一 2年目



支え合い活動スタート



畑立ち上げの話し合い



多世代交流の場（畑）



畑サロン（人の楽しみは多様）



認知症の方にもやさしい
図書館

地域の特集

Number
01

**スーパリーや商店街と協定を締結
校区単位でも災害に備える**

校区防災協議会・自主防災会

3年前、隣接する岡部町・美濃の台とついでに校区防災協議会を設立しました。校区単位の防災組織は市内初の取組です。

「熊手は学校の体育館です。から、熊ノ台の住民だけでなく、小・中学校に区に住む皆さんで取り組む必要があります」と記す。同協議会会長の太田慶次さん。災害時には食料品や薬などを優先的に提供してもらえよう。熊ノ台にあるスーパリーや商店街と協定を結びました。いざというときの備えを着々と準備しています。

「下校中の児童が不審者に声を掛けられました。子どもの見守りに協力をお願いします」



(写真右)協定を締結したスーパリーと商店街。150万円を自治会費で確保し、いざというときに備えます(上)スーパリーに並ぶ飲料類。災害時には、車や介護用品なども優先的に提供されます



Number
02

**週3回の防犯パトロール
警察と連携し、安全を守る**

青色防犯パトロール委員会



「下校中の児童が不審者に声を掛けられました。子どもの見守りに協力をお願いします」



自治連合会で所有する「青パト」、熊ノ台を5つのルートに分けて巡回しています

「11年間、目立った事件はありません。安全に暮らせて何よりです」と記す。同委員会会長の菅沼英次郎さん。年間150日の巡回を続けています。



車から降りて公園のトイレに立ち寄り、安全を確認、汚れていれば洗濯機をすることも

Number
03

**送迎支援で外出機会をつくる
気持ちも晴れて健康に**



Number
04

**4倍に増えた会員数
サロンと仲間も増えて幸せに**



週に1度、約30人が集まる「いきいき白樺会」。活動の後は、昼飯を大台で



会員の橋田洋子さんは、手作りのパンを年3回、自宅で作る職人です。



「いきいき白樺会」は、白樺会が中心となり、地域の高齢者を支援する活動を行っています。活動の後は、昼飯を大台で食べ、交流の場です。また、手作りのパンや、地域の産品なども販売しています。

特集1 **まちのエンジン**
-鹿ノ台、全方位型のまちづくり-

地域には、高齢者だけでなく、障害者も子どももさまざまな人が暮らしている。みんなが暮らしやすいまちの実現を！

地域共生社会
の実現

第4幕 「100のコミュニティづくり」

市民との協働（ワークショップ）

「地域の課題＝まちづくりの課題」と捉え、各担当課が開催する「ワークショップ」に関係課が連携

従来のワークショップ

助け合い・支え合いを進める
ための意見交換会



地域包括
ケア推進課
（単独）

地域住民

高齢者の支援を中心にワークショップを
開催しても地域全体の課題となると担当
課だけでは進行が厳しかった

各課連携したワークショップ

あすか野ミライ会議



住宅
政策室

地域
住民

いこま
の魅力
創造課

地域
包括ケア
推進課

関係
各課

中地区ワークショップ



市民活動
推進課

地域
住民

いこま
の魅力
創造課

地域
包括ケア
推進課

関係
各課

各地域が直面している課題を市役所の各部局も連携・協力し合うことにより
市民との協働・協創がさらに発展！
それぞれの生活圏域に存在する介護事業所やケアマネジャー、包括支援センター
や民間企業等も交わることで、さらに地域づくりが加速化できるはず・・・

介護発！地域づくり・まちづくりへと発展

[illegible]

宝島でサマソン!

あすが野クイズ

Let's TRY!

Q1 2040年のあすが野の人口は? (推定4,400人)

ア 3,600人
イ 4,400人
エ 3,400人

あすが野町民のアンケート調査の中で最も多かった回答が「ア」です。人口は町民の意見に基づいて推定されています。もちろん、将来は町民の意見と必ずしも一致するとは限りません。あすが野の町民の意見が、あすが野の未来を形作る一歩として役立ってほしいです。

※町民の意見は、町民の意見が最も多かった回答を基準として推定されています。人口推定は町民の意見に基づいて推定されています。

人口は町民の意見に基づいて推定されています

年	町民の意見	町民の意見	町民の意見
2010	100	100	100
2020	105	105	105
2030	110	110	110
2040	120	110	130

※人口推定は町民の意見に基づいて推定されています。人口推定は町民の意見に基づいて推定されています。

Q2 あすが野小学校の全校生徒は幾人?

ア 1,600人
イ 700人
エ 800人

あすが野小学校は現在、児童が約1,600人います。これは、町民の意見に基づいて推定されています。もちろん、将来は町民の意見と必ずしも一致するとは限りません。あすが野の町民の意見が、あすが野の未来を形作る一歩として役立ってほしいです。

※町民の意見は、町民の意見が最も多かった回答を基準として推定されています。人口推定は町民の意見に基づいて推定されています。

Q3 これはどの写真?

あすが野で撮影された写真です。これは、町民の意見に基づいて推定されています。もちろん、将来は町民の意見と必ずしも一致するとは限りません。あすが野の町民の意見が、あすが野の未来を形作る一歩として役立ってほしいです。

※町民の意見は、町民の意見が最も多かった回答を基準として推定されています。人口推定は町民の意見に基づいて推定されています。

宝島でサマソン!

あすが野クイズ

高齢者の生活を支えるための 仕組みづくりに向けた意見交換会

高齢の方が住み慣れた地域で暮らしていくために、生活上の困りごとへの助けが必要との声が上がっています。

そういった声を受け、中地区健康まちづくり協議会は、地域で暮らす高齢の方を支えるための仕組みを作りたて考えています。この意見交換会に参加し、自分たちはどのようなことができるか、一緒に考えてみませんか。

内容(案)

【1.議題】

- ・なぜ助け合い、支え合いが必要か？

【意見交換】

- ・地域の今を見てみよう！
- ・アイデアを出し合おう！

期日 令和2年1月31日(金)

9:30～2時間程度

場所 生駒市図書館 大会議室B

対象 中地区(生駒小・桜丘小学校区)にお
住まいの皆さま

中地区健康まちづくり協議会 代表 森岡

TEL 090-2105-0843

アサカ野 学校生活委員会

あすか野ミライ通信

アサカ野ミライ会議の開催についてお知らせ

あすか野ミライ会議の発表会を開催しました！

- ◆日 期：平成31年10月14日（土）13:00～15:00
- ◆場 所：あすか野小学校体育館1階ホール
- ◆参加者：50人
- ◆アジェンダ
 - ・あすか野ミライ会議のついで
 - ・特別講演「地域人権啓発」川崎 隆生氏
（東京大学大学院法学政治学専攻教授）
 - ・各プロジェクトの発表
 - ・ミライ会議の総括について
 - ・コメント（校長、教員、保護者）



あすか野ミライ会議について

（1）ミライ会議を常設として開催すること、あすか野を誇りに感じ、①ミライをテーマにしたグループワークから地域社会の発展のためにつぎを、活動の方向性を明らかにしました。

10月14日
ミライ発表
会

10月15日
ミライ発表
会

10月16日
ミライ発表
会

10月17日
ミライ発表
会

10月18日
ミライ発表
会

講演「楽しみながら始めるまちづくり」

[illegible]

生駒市がめざす姿

生駒市は次世代へへの道筋・道すがら歩くための「ベッドタウン」として発展してきた。しかし、生駒市を「住む」だけでなく「働く」場所としても、活版の「サテライトシティ」を模索している。日本の多くの地域を主眼とするように思われる。生駒市で定住・働く人にも「住んでいていい」。

これからは「ベッドタウン」から「まち」へ。多様な働き方を暮らしやすくなる機会や、働く人へのサポートが計画されている（スローアージュ）。土地を失う危険性が、40年単位で、都市が壊れる、働く人が定住するより多量に定住が必要という、あるいはもういっしょにまちづくりを進めていくことが目的になります。

**「ベッドタウン」から
「自分らしく輝けるステージ」へ**

まちづくりを進める上でのキーワード

市民主体

まちづくりの主体は市民です。様々な分野や市民が関与できる場を設け、市民・事業者・行政の協働を進めます。

自助・共助・公助

身近な課題に際しては、まず「自助」（自分自身で解決）、次に「共助」（関係する団体や協力者など）、そして「公助」（行政が支援）、順次進めるという考え方をまちづくりの原則にします。

協創

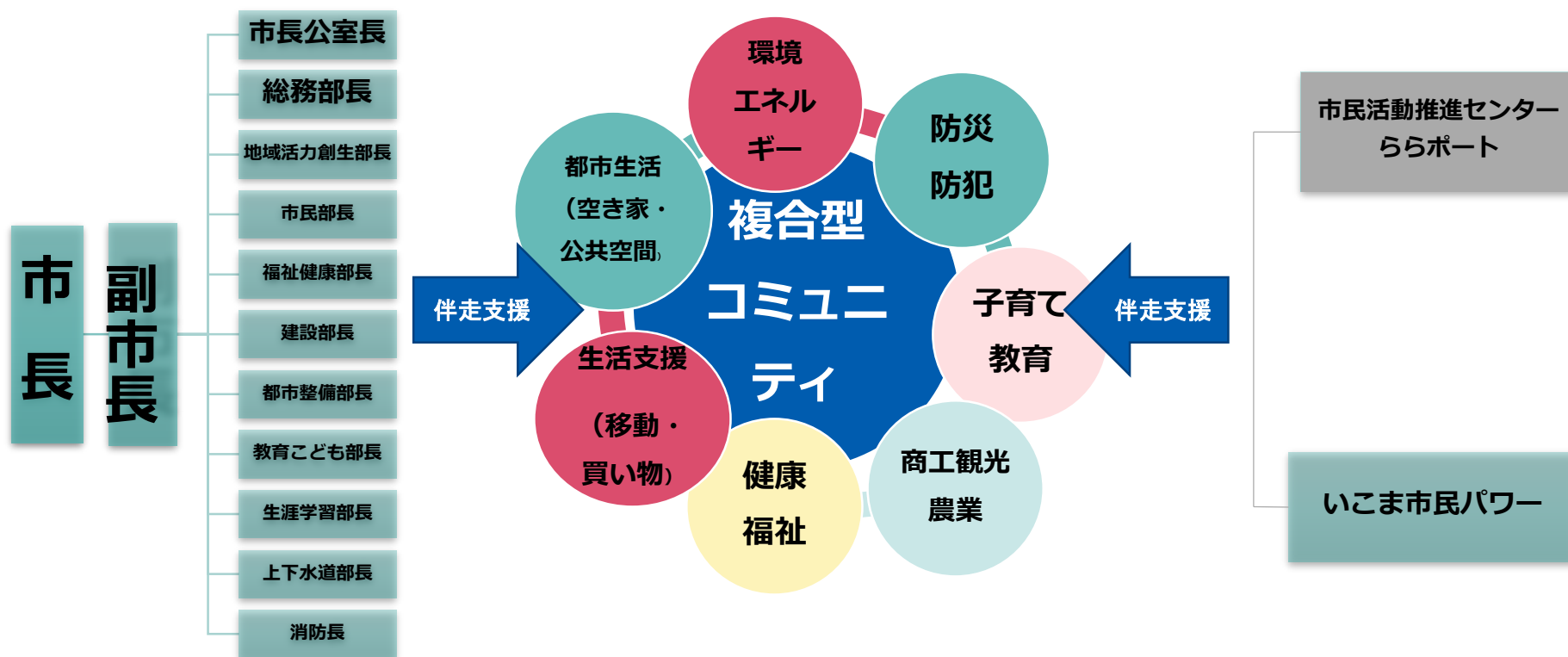
行政、市民、事業者等の垣根をとり超えて、ある目標を実現と行政のみで本来達成困難な取り組みが協働により達成すること、様々な分野の協働関係を促進する「協創」のまちづくりを進めます。

[illegible]

■複合型コミュニティづくり推進体制

【庁内推進会議】
【庁内担当者会議】

【中間支援団体】



100のコミュニティ事業の展開（R元年～）

政策形成→100のコミュニティ事業の展開



コミュニケーション
とゴミステーション
を掛け合わせ住民が
作成



ゴミの分別

最大の移動・生活支援を市民・事業者・市の協創で実現！



こども食堂

地域交流の場（宿題するこども達）

地産地消（野菜の販売等）

北小平尾自治会【みんな集まれ！ワクワク農園】

モデル：畑×交流

- 実施主体：みんな集まれ！ワクワク農園
- 拠点施設：畑

仕掛け

採れたての新鮮野菜を同畑で朝市として有償販売することで収益を確保し、補助金終了後も持続可能な仕組みづくりをしている。

概要

耕作放棄地を開墾し、畑を基軸とした各種イベントを定期開催している。畑での体験を通じて、子どもの情操教育にも役立てている。



ひかりが丘自治会【ひかりが丘こみすて】

モデル：ごみ出し×交流

- 実施主体：自治会
- 拠点施設：集会所及び公園

仕掛け

回収した資源ごみは業者に回収と売却を依頼し、有価物の売却益を運営費に充てながら、補助金終了後も持続可能な仕組みを最初から構築している。

概要

多種多様な資源ごみを回収する場を中心に、子ども向け漫画図書館や不用品交換コーナーを併設している。多世代を呼び込むために健康教室や子ども向けに駄菓子屋を同時開催している。



鹿ノ台北1丁目自治会【交流サロン】

モデル：サロン×交流

- 実施主体：老人会
- 拠点施設：集会所

仕掛け

集会所に通信環境を整え、若い世代にも集会所に来てもらうきっかけづくりをした。

概要

老人会のサロン活動を発展させ、自治会と協力しながら地場野菜の販売などを実施している。また若い世代にも来てもらうため、小さい子ども向けの折り紙講座などを企画。集会所に新たにWi-Fiの通信環境を整え、無料で利用できるようにした。



萩の台住宅地自治会【こみすて】

モデル：ごみ出し×交流

- 実施主体：自治会
- 拠点施設：自治会館・緑道及び公園

仕掛け

近隣の公園で別団体が毎月定期的に行っているイベントと協力して同時開催することで、今まで自治会活動にあまり来なかった若い世代や子供たちとも交流している。

概要

毎日排出される生ごみを肥料化できる装置を中心に、カフェ機能などを複合化しごみ出しのついでにカフェで交流するきっかけづくりをしている。



ローレルコート萩の台自治会【にぎわいステーション】

モデル：にぎわい×交流

- 実施主体：自治会
- 拠点施設：集会所及びテニスコート

仕掛け

酒蔵に出張販売に来てもらうという外部とも連携することで、効率的に場の運営している。

概要

移動販売車に加えて、野菜の移動販売やお酒の出張販売も実施し買い物支援を実施している。また、おもちゃ・本・DIY道具を常設し、住民が自由に使えるようにしたり、テニスコートの一角でプランター菜園も新規に併設し、交流を創出している。



さつき台南自治会【二丁目図書室カフェ】

モデル：図書館×交流

- 実施主体：自治会
- 拠点施設：集会所

仕掛け

野菜やお菓子の販売は外部と連携し場のみ提供し、にぎわいを創出している。

概要

新たに本棚を設置し、住民から本の寄贈を募り集会所に図書室を開設し、集会所の利用促進をしている。また同時に野菜の移動販売、かざぐるまと連携しお菓子などの販売や健康マージャンを開催している。



西菜畑町自治会【西菜畑こみすて計画】

モデル：ゴミ出し×交流

- 実施主体：自治会
- 拠点施設：集会所及び広場

仕掛け

地域特性を考えた、畑を活用した具沢山の味噌汁づくりを計画中。

概要

常設型の資源ごみ回収ステーションを中心に、イベントとして地域の子どもたちとこみすて看板づくりや、お菓子作りが得意な自治会役員によるお菓子作りイベントを開催。健康体操を定期開催し、ごみ出しと複合化させている。



【チロル堂から広がる地域づくり】

普通の駄菓子屋とは違うチロル堂のまほうのしくみ

チロル堂の入り口には、18歳以下の子どものみで回ることができるカプセル自販機があります。



地域の子どもたちを
地域の大人が支えるしくみ

なんと、まほうがかかった100円は100円以上の価値になる



100円ぶんの駄菓子だけでなく



300円のポテトフライも



500円のカレーも子どもは1チロルで食べることができます。



大人が寄付や支援すること＝「チロル」

チロル堂は駄菓子だけでなく、大人用のお弁当やカレー、コーヒーなどのメニューも販売しています。これらの代金を大人が支払うことで一部を「チロル」(寄付)ことができ、こどもたちがワクワクする「まほう」に変わります。



大人が食事などを楽しみながらチロルだけで、こどもは100円さえあれば100円以上の価値のものを食べることができます。

「チロ」は商品の購入だけじゃない

- ・お米や野菜などのモノでの「支援チロ」も大歓迎！
- ・過去には絵本のチロ+絵本の読み聞かせによる「チロ」も！

チロって楽しい！



ご清聴ありがとうございました